大学体育研究　46：99 － 105，2024

2023 Mexican International Challenge 競技大会報告
―大学に所属するバドミントン日本代表選手の海外トーナメントチャレンジの現状―

吹田真士[1)]，漆崎真子[2)]

Report of 2023 Mexican International Challenge
―Current status of overseas tournament challenges for Japanese Badminton Players belonging to Universities―

Masashi SUITA[1)], Mako URUSHIZAKI[2)]

1. はじめに

2023 Mexican International Challenge が 2023 年 5 月にメキシコ・グアダラハラで開催された。本大会に筑波大学バドミントン部所属の栗原あかり選手（体育 4 年）が女子シングルス（以下 WS）に出場し，著者も帯同コーチとして参加した。

世界各国からの参加人数は，WS においては 24 カ国から 52 人であったとの Badminton World Federation（以下 BWF）の HP による報告があるが，大会に出場するにはエントリー時点で BWF が決定するドローの中に入る世界ランキングポイントを保有していなければならない。今回 WS は 64 人の選手のドローが採用されたため，世界ランキングポイントの低い彼女でも出場することができた。本稿では，バドミントン競技において日本代表選手として選考された大学所属選手がどのように海外大会にチャレンジしているのか，その現状について報告する。

2. バドミントン競技における日本代表選手選考について

2023 年の日本代表選手の選手選考基準は，公益財団法人日本バドミントン協会の HP に掲載されている。選手強化本部の発表によると，選考基準は，2024 年パリオリンピック・2028 年ロサンゼルスオリンピック対策プロジェクトと位置付け，ナショナルチームを日本代表選手 A 代表・B 代表・ジュニア代表のチーム構成とすることが記されている。各チームの基本構成は，A 代表は男女各 16 名程度でシングルス男女各 4 名，ダブルス男女各 4 組，混合ダブルス 4 組とあり，混合ダブルスとダブルスは兼ねる

1）筑波大学体育系
Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba
2）筑波大学大学院体育学学位プログラム
Master's Programs in Physical Education, University of Tsukuba

場合があること。B代表は男女各15名程度でシングルス男女各6名，ダブルス男女各3組，混合ダブルス3組とあり，混合ダブルスとダブルスは兼ねる場合があること。またジュニア代表についてはU19・U16・U13の3カテゴリーに分けて編成し，対象年齢選手を基本としてジュニア強化部で選考する，と記されている。さらにA代表及びB代表の選考方法については，(1) 令和4年度全日本総合バドミントン選手権大会の各種目ファイナリスト，(2) 同年全日本総合バドミントン選手権大会後発表の日本ランキング上位各1名，(3) 選手強化本部推薦選手，(4) 日本代表選手選考後にA代表チーム・B代表チームを決定する，とある。ジュニア選手に関しては割愛する。

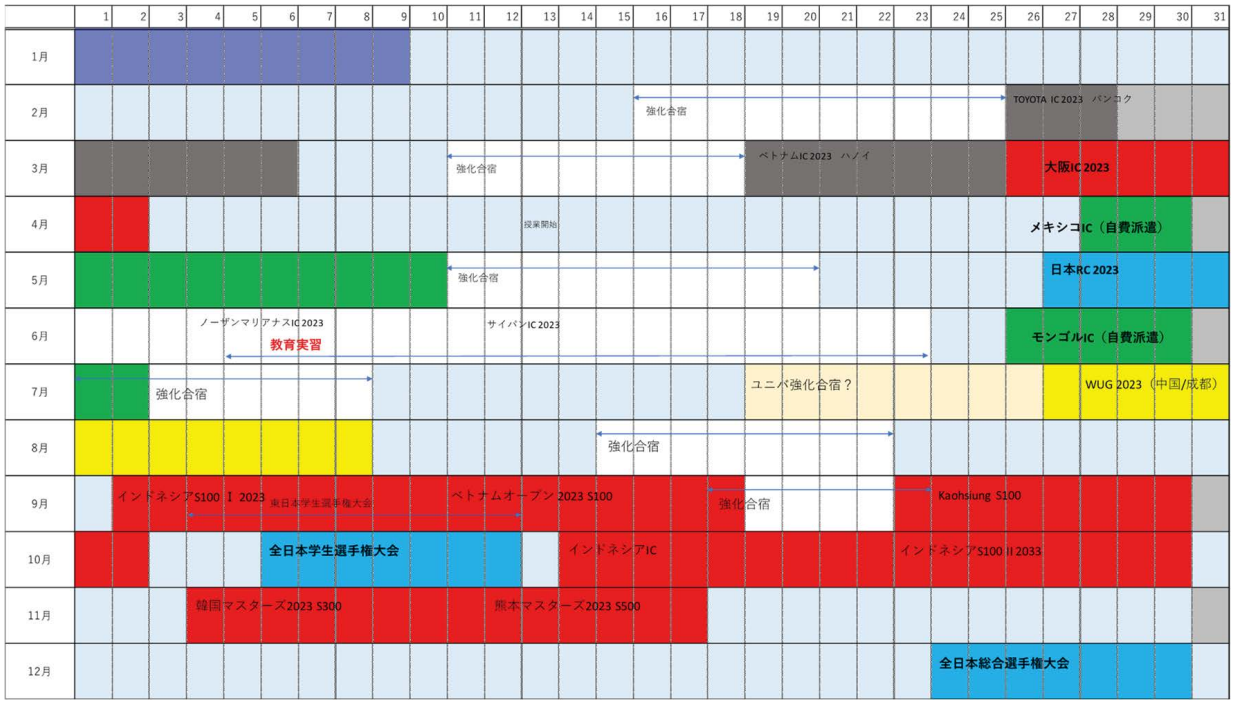
選考基準及び選考方法とWSにおいて実際に選ばれた選手を比較してみると，(1) 及び (2) は明瞭であり選考方法の通りに選考されている。2022年の同大会においては日本ランキング1位の選手が優勝したため，日本代表候補選手10名のうち8名についてを (3) 選手強化本部で決定することになった。まずは，2024年のパリオリンピックレースの中心にいる選手が選考対象となり，結果的に本大会で準々決勝進出を逃した選手の中から2名が選出された。次に，準決勝に進出した2名が選考され，残りは準々決勝進出者とそれ以外の選手の中から，年齢的なことつまり将来性などを考慮して選考されたと考える。すなわち，その最たるものがベスト16の高校生M選手（2022年世界ジュニアWSチャンピオン）の選出である。残りの3名について，準々決勝に進出した4名を中心に3名を選ぶ過程の中で，最終的には元日本代表選手で24歳のS選手は選考から外れ，21歳の栗原あかり選手を含む，20歳と19歳の選手が選考された。2028年のロサンゼルスオリンピックを見据えて若手選手を優先させたことは考えられるが，大会を通しての試合内容や過去の実績も考慮されているであろうことや，選手によっては自ら代表チーム入りを辞退する選手がいることも付記したい。

3. 代表選手選出後の日本代表チーム及び所属（大学）の強化・育成プラン

令和4年度全日本総合バドミントン選手権大会終了日に2023年の代表選手がプレスリリースされ，翌日（12月31日）には内定選手宛にメールが届き以降の代表活動についての第一報が入っている。そこには事業計画も含まれており，栗原あかり選手は，2023年度のB代表選手として2月中旬に第1回の代表合宿が開催され，3月2週目にバンコクでTOYOTA International Challenge（以下IC）2023に出場，帰国後の強化合宿を経て，4週目にハノイでVietnam IC2023に出場。その翌週に大阪IC2023に参加する予定であることが通達された。また，2023年12月の「令和5年度全日本総合バドミントン選手権大会」の開会前まで国際大会10大会に派遣する予定であることと，6回の強化合宿が計画されていた。この計画を受け，所属元である筑波大学バドミントン部でも年間計画を作成し（表1），代表活動と所属の活動を融合させ更に高い競技力を獲得できるようにスタートを切った。具体的には，大学生カテゴリーでの大会出場は10月の全日本学生選手権大会のみとし，5月末の日本ランキングサーキット大会及び12月末の全日本総合選手権大会を最重要試合に位置付けること，代表での合宿や国際大会派遣でベストを尽くすのは当然であるが，大学での練習では上記大会に向けて日本A代表選手との戦いのための課題克服を重視すること，トレーニングの積み重ねにおいてはサッカー競技に代表される「戦術的ピリオダイゼーション」の考え方（林，2020）（山口，2020）を参考にし，周期性を検討して実施すること，とした。

なお，代表チームにおいては所属チームとの連携を重視するということで，2月8日には「今後に向けた代表活動についての意見交換会」をオンラインで開催している。しかしながら，具

表１「2023 年度日本代表（B 代表）選手派遣・合宿計画」を踏まえた
「栗原あかり選手の年間計画：2022 年 12 月 31 日時点」



体的な育成・強化プランなどが示されることはそれ以降を含めてなかった。「代表選手の強化活動（合宿・国際大会協会派遣）に関して，日本代表選手（ナショナルチーム）A 代表・B 代表・ジュニア代表のスタッフにより，競技力向上を目的に相互交流も含め該当選手の強化に努める事とする」，とあるが，そもそも，代表選手の活動期間は１年単位であり，１年毎にメンバーは更新される。代表として国際競技力向上のために機会（国際大会の出場と強化合宿）は設け，代表コーチもアドバイスは送るし所属先との連携も考えていると言うものの，競技力向上のための具体的取り組みは所属（大学）に一任されているスタンスであることが分かった。

4. BWF 認可の国際大会と大会エントリーのルール

BWF 認可の国際大会は表２にあるように Grade 分けされている。大会規模や賞金総額などいくつかの条件で決まるがここでは割愛したい。選手は，出場した大会の結果により世界ランキングポイントが付与されることになる。Grade の高い大会にはエントリー制限もあり，より Grade の高い大会に多くのポイントが設定されている。また世界ランキングの上位者には参加義務もある。当然のことながら，Grade の高い大会に世界ランキングの上位者が出場することが多くなるが，どの大会にエントリーするかは原則としては選手あるいは所属する国が戦略的に決めるものである。日本協会では，Super500 以上の大会には原則として日本代表選手 A 代表をエントリーすることを定めている。今回栗原あかり選手がエントリーした International Challenge は Grade3 の大会で，この先世界に羽ばたこうとする若手選手の登竜門的な位置付けの大会である。

国際大会にエントリーする際のルールは，上述以外にも，各国協会が独自のルールを設けている。日本バドミントン協会では日本代表選手以外でも自費で参加できるように参加基準を設定している。原則として前年度の全日本総合バドミントン選手権大会にエントリーした選手に

表 2　BWF　World Ranking System

	Winner	Runner Up	* 3-4	5-8	9-16	17-32	33-64	65-128	129-256	257-512	513-1024
Grade 1 - BWF Tournaments (BWF World Championships and Olympic Games)	13000	11000	9200	7200	5200	3200	1300	650	260	130	65
Grade 2 – BWF World Tour – Level 1 (Finals) and Level 2	12000	10200	8400	6600	4800	3000	1200	600	240	120	60
Grade 2 – BWF World Tour, Level 3	11000	9350	7700	6050	4320	2660	1060	520	210	100	50
Grade 2 – BWF World Tour, Level 4	9200	7800	6420	5040	3600	2220	880	430	170	80	40
Grade 2 – BWF World Tour, Level 5	7000	5950	4900	3850	2750	1670	660	320	130	60	30
Grade 2 – BWF World Tour, Level 6	5500	4680	3850	3030	2110	1290	510	240	100	45	30
Grade 3 – International Challenge	4000	3400	2800	2200	1520	920	360	170	70	30	20
Grade 3 – International Series	2500	2130	1750	1370	920	550	210	100	40	20	10
Grade 3 – Future Series	1700	1420	1170	920	600	350	130	60	20	10	5

* At the Olympic Games 3rd place will receive 10100 points. Fourth place will receive 9200 points.

** At BWF World Tour Finals – for Tournaments with rounds in group play (pool matches) please refer to clause 4.2.6

資格が与えられるが，2023 年度に関しては選手強化特例措置として「当該基準の日本ランキングで各種目 64 位以内にいる者に出場を許可し資格を与える」とされている。前年度の U-19 日本代表選手も条件付きでエントリーが認められており，いずれも若手選手の育成措置の一環であると考えられる。

大会エントリーは当該年度日本代表選手のエントリーが優先されるが，8 複 8 単を上限としているため，ナショナルチーム選手のエントリーがそれに満たない場合は自費でのエントリーが認められている。なお，その場合は日本ランキングの上位者からエントリーが容認される。日本ランキング 8 位以内の選手は 10 大会，16 位以内は 8 大会，17 位以下は 6 大会のエントリーが認められ，日本代表選手が代表派遣大会以外で参戦しようとする場合は，事前に選手強化本部長の許可が必要とされている。

ここで重要になるのが，日本ランキング上位者や日本代表選手の世界ランキングポイントが必ずしも高いわけではないという事である。つまり，日本代表選手として国際大会に派遣されても，自費参加選手が世界ランキングポイントを多く保有している場合，その選手がドローに優先的に反映されるという事である。その結果，日本代表選手として国際大会に派遣されても，日本代表選手ではない自費派遣選手が大会に出場でき，代表選手が出場できない事態が現にある。

5. 本大会に出場することを決めた経緯と出場決定までの経緯

バンコクでの TOYOTA International 2023（3/5 ～ 3/13）のエントリーは，2 月初旬に締め切られた。栗原あかり選手は本戦リストだけでなく予選リストからも漏れ，リザーブ（補欠）リストの 54 番目であった。翌々週のベトナム IC についても同じような状況であり大会出場がほぼ

不可能であることから，両大会のエントリーをキャンセルする旨が2月15日に日本協会より届いた。ここで世界ランキングポイントを持たない栗原あかり選手の置かれている状況について，非常に厳しいものであることが明白となった。6月派遣予定のサイパンでの2大会は教育実習でキャンセルせざるを得ず，このまま世界ランキングポイントを保有しないままで活動を続けていても，9月以降に予定されているより高いGradeの大会に参戦することはさらに難しい。このような状況をどのように考えているのか，代表チームのコーチ陣に確認を取ったが，明確な回答はなかった。奇しくも，日本バドミントン協会は，2022年から2023年にかけて複数の不祥事事案が認定され，ガバナンス改革を余儀なくされている。2022年の12月1日付で役員変更を行い，2023年6月には再度の役員改選を行っている。そんな最中であり，責任の所在や代表強化活動方針は不鮮明であった。

自費派遣ではなく日の丸を背負って国際大会に出場することは日本代表選手としての一つの名誉であるにも関わらず，それが実現されない状況は，栗原あかり選手のバドミントン人生においてもプラスに働くとは思えず，所属チームとして何とかできないか考えた際に，自分たちの努力で世界ランキングポイントを獲得する手段を模索することとした。とはいえ，開催予定の大会を自由に選択できるわけではなく，世界ランキングポイントの少ない選手でも出場がしやすい，より下位のInternational Series（以下IS）やICの大会から，代表や大学のスケジュールを踏まえて急遽リストアップした。その結果，オランダIS（4/13～16）への自費派遣エントリーを2月27日に行なった。タイとベトナムの派遣キャンセルが通達され2週間以内での決断であり，渡航費用などの当てが明確にあるわけではなく，後押しをしてくれた私の家族や筑波大学バドミントン部教職員会議，そして当人の御家族には感謝の意を表したい。エントリーをしたものの，バドミントン競技はヨーロッパとアジアで盛んに行われていることからオランダISの出場も危ぶまれ，メキシコICへのエントリーも3月14日に行なった。結果的にオランダISもリザーブリストの下位に位置付けられ派遣を断念したことから，このメキシコICにエントリーする決断をしたことが，彼女の2023年シーズンを支えるものとなった。

6. 本大会に出場したことの意味と意義

メキシコICのM&Q reportの発表は4月10日であった。中米での開催ということで，世界ランキングポイントを保有していない選手のエントリーが多く，狙い通り本戦リストに名前が掲載された。

初戦でJENNIE GAI選手（USA）に2-0（21-11，21-13）で勝利すると，次戦でRACHEL CHAN選手（CAN）に2-0（21-16，21-14）で勝利。準々決勝では第1シードで世界ランキング35位のIRIS WANG選手（USA）に2-0（21-14，21-17）で勝利。準決勝は同じ日本代表選手の水津選手に0-2（17-21，14-21）で敗退した。

大会会場のメキシコ・グアダラハラは標高が高く，大会使用シャトル（AEROSENSA 50　ヨネックス社製）は，受注生産でのみ取り扱われる軽く“飛びにくい”スピード番号が1のもので，さらに空気抵抗を高めるためシャトルのスカート部先端を外側に折り曲げたものが用いられた（図1）。それでも，通常と同様の努力度のスイングでシャトルを打ち出せば容易に相手コートを飛び出すシャトルフライトとなってしまうため，こうした環境への適応能力が試される土地であった。栗原あかり選手はコートを大きく使う展開が得意な選手で，これまでシャトルの飛び方が複雑であると苦戦することが多かったが，戦い方の幅を拡げることにも成熟し，試合中に大きく崩れることなく上位に進出できたことは，世界ランキングポイントを獲得できたこととともに大きな収穫であった。結果的に，今回のメキシコICで獲得したポイントでモンゴルIC（6/27～7/2）にも出場でき，モ

図１　外側に折られた公式シャトル

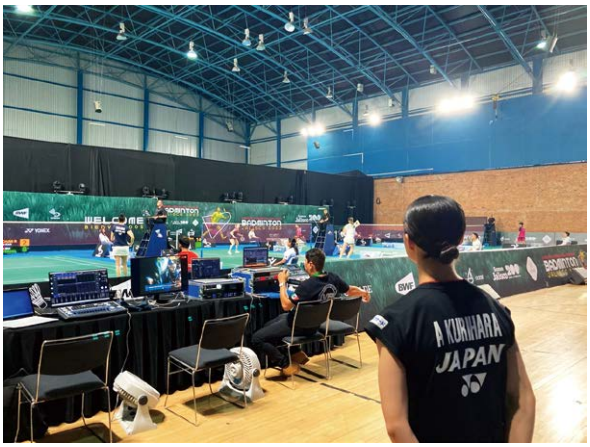


図２　試合の様子を見守る栗原あかり選手

図３　WS のメダリスト（右端が栗原あかり選手）

ンゴル IC での優勝による世界ランキングポイントと合わせて，９月初旬からのＢ代表派遣大会に出場できることが決定した。インドネシア super100（9/5～9/10）はエントリー時にリザーブ４番目（で結果的に予選に繰り上げ出場），ベトナム super100（9/12～9/17）は予選からの出場であったことからも，自費派遣をしなければ，到底出場できる状況ではなかったことが分かる。

7. おわりに

本大会にはバドミントン国内最高峰 S/J リーグⅠの所属チームからも 3 チームが出場している。各チーム・選手の思惑は様々で，栗原あかり選手同様に世界ランキングポイントを自費で獲得しなければ日本代表選手としての国際大会出場が危ぶまれる選手，今後のキャリアのため（日本代表選手になった際に国際大会にエントリーされやすくするため）に世界ランキングポイントを獲得しておきたい選手，オリンピックレースのための確実なポイントを獲得したい選手などである。ここでの確実なポイントとは，表 2 にあるように，グレードの高い大会で上位進出が期待できない選手にとっては，今回のメキシコ IC のようなグレードの低い大会で上位入賞することを戦略的に選択することも重要になるという意味である。いずれにしても自費で参戦する場合は多額の費用がかかるわけであるが，現在日本においては，この費用を準備できなければ選手としてのキャリアが閉ざされかねない状況にあることを特筆したい。

＊メキシコ遠征の後に実施したモンゴルへの自費派遣に関しては，令和 5 年度茗溪会学生活動支援事業の支援をいただきながら実施できたことの御礼をこの場をお借りして申し上げたい。

参考文献

日本バドミントン協会，日本代表選手選考基準，http://www.badminton.or.jp/national/rule2023.html，2023

日本バドミントン協会，2023 年国際大会自費参加基準及びエントリー要項，http://www.badminton.or.jp/concerned/docs/self_mainPoints_20230407.pdf，2023.4.7.

Badminton World Federation, BWF World Ranking System, https://system.bwfbadminton.com/documents/folder_1_81/Statutes/CHAPTER-5---TECHNICAL-REGULATIONS/Section%205.3.3.1%20World%20Ranking%20System.pdf, 2023.

Badminton World Federation, Tournament winners 2023, https://bwfbadminton.com/tournament/4795/iii-mexican-international-challenge-2023, 2023

林　舞輝，「サッカー」とは何か，（株）ソル・メディア，2020.

山口　遼，戦術脳を鍛える最先端トレーニングの教科書　（株）ソル・メディア，2020.